
CrossOver **俺の俺による俺らしい異世界物語**

久世 途夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CrossOver 俺の俺による俺らしい異世界物語

【Nコード】

N2711Y

【作者名】

久世 途夜

【あらすじ】

『君を異世界にご招待！』この言葉から、俺の日常はぶち壊された。人は育つ場所、時代を選ぶ事は出来ない。人は自分の運命を最初から良いようには出来ない。しかし、生き方を決める事は出来る。俺の向かわされた場所は史上最低最悪の無秩序ながら血で血を洗うかのような戦争の続く戦乱の世。終わる事のない戦争、奴隷制度や世俗に塗れた新興宗教。しかし、その世界にも終わりか？ 史上最低最悪でも、終わらせて溜まるかよ！！俺に何が出来る？！俺が出来る事は何だ！？ これは俺の俺による俺らしい異世界物語

……、正義、想いを胸に、さあ、舞い踊ろうか（時折卑猥な表現、描写、BL要素が登場します。苦手な方は即座にバックブラウザ）

招待と書いて強制連行

俺は高校生だ。

それはもう誰が何と言おうと、超普通の高校生である。

特筆すべき点もなければ、目立って悪い点もない。

強いて上げるならば、一日の読書量だろうか。

一日三冊読破を目標に現在まで読み続けた結果、学校の図書室程度では飽き足らず、図書館にまで手を伸ばした。そろそろ買いたい所なのだが、如何せん金が無い。

一応バイトはしているのだが、それでも食費で消えるのがオチ。誰かこのどうにもならない生活をどうにかしてくれないか？

まあ無理だろうけどさ……。

他に特筆すべき場所も、強いて上げる点もない。

此処まで来ると自分のプロフィールを書くのも困って来る。

さて、じゃあそろそろ寝ようか。

お休み。

「こらこらこらこら、現実を直視しなさいな」

夢だよ、夢。

そうだよな、夢だよ。誰だよ、金髪の幼女特集何て危ない雑誌を俺の枕の下に置いた奴。

「よし、なら強制的に私の重力能力で……」「起きます起きますから落ち着いて、ね？」「よし」

てか重力能力で、あれか、重力増加魔法のグラビデか何かか？

……まあ、説明しよう。

現在俺はベッドの上の居る。勿論、寝巻きだ。

既に時刻も3時を回り、4時に差し掛かるうとしている。

寝たいのだよ、寝たいのだ　　が、寝させて貰えない。

何故か、目の前に貧乳のまあ美少女（笑）が胸を張って威張っているのだから。

結論、ザ、レビテーション。

そりゃあ現実逃避だつてしたくなるよ。

誰だよお前つて領域通り越して、一気に現実逃避の領域だよ。

因みにその貧乳の彼女は自称神様。これも括弧笑いで良いかもしれない。

身長は見た所150センチ程度、髪の色はクリーム色に近い金色。前髪が風で踊ると露わになる金色の瞳は、下手な宝石よりも輝いている。

いやあ、目が輝いてるって子供の証だよな。

「子供言うつな、子供。いつその事炎神の能力使つてこの町消し飛ばすよ?」

「申し訳御座いませんでした」

怖い……、脅し、駄目、絶対。

てか町消し飛ばすって……、脅し以前に国家問題に発展しそうな勢いだな、おい。

「で、その自称神様が一体俺に何の用だよ……、俺はそろそろ寝たいんだが?」

「この時間帯から寝るってどれだけ不健康な生活してるのよ。まあ、それでね、本題」

「あいあい」

「君を異世界へご招待」

「よし、お休みなさい」

確定、これ俺の夢。

「重力能力壱・攻式？部分増加？」

「ぶべらっ！！！」

ズドンッ！！！！　と言う盛大な音と共に俺の頭はベッドに沈み、そのままベッドを粉碎し、そのまま強打しました、まるで、

「壊すな！！！」

「おお、凄い凄い。痛い？」

「多少な」

多少で済んだ俺、凄いよね。

これも努力のたわものだね。

「ま、まあ、それは置いて置いて、嗚呼、時間が不味い！　と・にか・く！　君には異世界に行って貰うよ？　私も途中までは同行するから！」

「ちょ、オイ！！　待て待て待て、待って待て待ってよ待ってくれ！！！」

「時間が無いの！　何！？」

「服装とかどうするんだよ!？」

「嗚呼、それも向こうで説明するよ!!！」

そう言つと自称神様は俺を引き摺りながら、某東方の隙間妖怪の宜しく、空間を抉じ開けて、俺の襟を掴んだまま飛び込みましたとさ。

いや、俺の日常、返してくれない？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2711y/>

CrossOver 俺の俺による俺らしい異世界物語

2011年11月6日05時22分発行